

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校70.0%, 県69.7%)

対県比

100.4%

学力定着実態調査 本年度正答率

本校 66.0%  
全国 64.8%

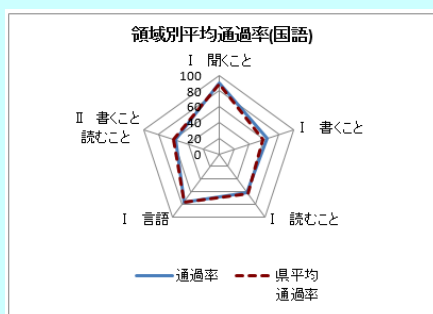
対全国比

101.9%

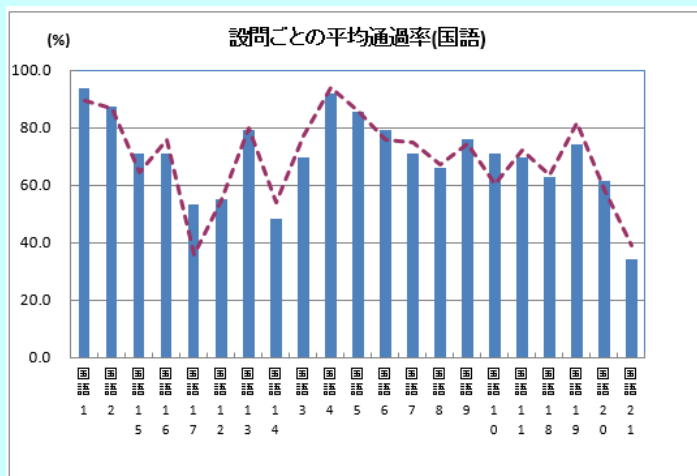
本年度の結果について

【基礎基本】タイプⅠは72.8%, タイプⅡは58.1%の通過率となっている。基礎的な知識や技能は、概ね定着していると考えられるが、タイプⅡの「根拠に基づいた考えの記述」に関する問題の通過率が33.9%と低い。  
【全国学力】「目的に応じて必要な情報を読み取る」問題の正答率が、県平均に比べて10%以上低い。

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



全国学力・学習状況調査 本年度正答率

A問題

本校 76.4 %  
全国 75.6 %  
県 76.6 %

B問題

本校 66.3 %  
全国 66.5 %  
県 67.9 %

来年度(全国学力学習状況調査)の目標値

対全国比

%

## 重点課題

「基礎・基本」定着状況調査

【課題1】(根拠に基づいた考えの記述) (33.9%)

▼問いに対して、文章や資料の、どの部分を根拠として記述すればよいのか判断できない。

【課題2】(小6の漢字の書き) (「秘める」66.1%) 読み(「げんいん」71.0%)

▼家庭学習では、新出漢字の書き取りに重きを置いている現状がある。小学校5・6年生の漢字の知識が定着していない。

全国学力・学習状況調査

【課題1】(タイプⅠ 小6の漢字の書き) (「独創」24.6%)

▼同音異義語の間違い(例: 独奏、独創、独想)が多い。

【課題2】(タイプⅡ 文章の中心的な部分と付加的な部分とを読み分け、要旨を捉える) (64.9%)

▼複数の資料を読み、「何を伝えたい文章なのか」を読み取る力に課題がある。

## 重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)

「基礎・基本」定着状況調査

【課題1】目標値(60%) 実施後数値(%)

◎例えば、『走れメロス』「メロス」「セリヌンティウス」「ディオニス」のうち、だれが一番つらいか?と投げかける。文中に描かれたそれぞれの人物の言動や心情描写を根拠として、「なぜ、自分はその人物が一番つらいと考えるのか」を述べさせる。そして「根拠を明確に記述する力」の育成とともに、県全体の課題である「心情を読み取る」力の育成を目指す。

◎条件作文(図表等の読み取り)を月1回程度書かせることで、「何が適切な根拠となるか」を捉えさせる力と、その根拠に基づいた考えを記述する力を育てる。また、条件を読み取る際に、重要だと判断した箇所には必ず線を引く習慣をつけさせる。

【課題2】目標値(75%) 実施後数値(%)

◎家庭学習では、新出漢字の書き取りのみをさせるのではなく、小学校5・6年生の漢字の定着を図る。また、家庭学習で出題した範囲を小テストの実施により確実に見取る。

全国学力・学習状況調査

【課題1】目標値(90%) 実施後数値(%)

◎家庭学習では、新出漢字の書き取りのみをさせるのではなく、小学校5・6年生の漢字の定着を図る。また、家庭学習で出題した範囲を小テストの実施により確実に見取る。

【課題2】目標値(75%) 実施後数値(%)

◎説明的文章の読み取りでは、キーセンテンスを捉えさせ、要約する活動を取り入れる。

※今後の改善計画については別紙